



校訓「質実剛健」

# 学校だより



学校教育目標 「心豊かで自ら学び たくましく生きる生徒の育成」

## 全国学力学習状況調査・県基礎学力調査（3年生対象4月実施）の分析と改善策

本年度4月に、全国学力学習状況調査（国語・数学・理科・質問紙調査）と県基礎学力調査（社会・英語・質問紙調査）が行われました。どちらも、各教科の学力の定着状況を把握するための教科調査と、学習状況や生活状況などを把握する質問紙調査の両方が行われました。

本調査は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的としています。以下に、本校の結果についての主たる分析と改善策をお示しします。

### 国語

特に正答率が高かったのは、「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える問題」である。

正答率が低かったり無解答率が高かった問題は、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える問題」である。

- この場面がなかったらどのように作品の印象が変わるか、などについて根拠を示しながら書く指導を増やす。
- あとの展開を予測しながら作品を読み、文章の構成や展開の効果について考える学習活動を工夫する。

### 数学

特に正答率が高く、県や国の正答率を大きく上回ったのは、「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取る問題」である。

正答率が低かったのは、「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明する問題」である。

- 授業の中で数学的な用語を用いて説明させたり、記述させたりする。
- 式が表しているものが何か言葉で表現させる。
- 授業の中で、奇数や倍数を文字で表す場面を増やす。

### 理科

特に正答率が高かったのは、「エネルギー」を柱とする領域の「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する問題で、県や国の正答率を大きく上回ったのは、「粒子」を柱とする領域の「身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定する問題」である。

正答率が低かった問題は、「地球」を柱とする領域で「大地の変化について、複数の資料を関連付けて表現する問題」である。

- 地層の学習では、離れた地点のいくつかの地層を比較したり、地層モデルを活用したりするなど、広がりや傾きを空間的な視点で捉える場面を設定する。
- 条件制御の意義について確認し、実験を考えさせる中で統一する条件、異なる条件を明らかにさせながら、実験させる。

## 社会

特に正答率が高かった問題は、地理的分野の「日本の気候の特色（季節風の向き）を問う問題」である。

正答率が低かった問題は、地理的分野の「複数の資料を基にナイジェリアの貿易が抱える課題を説明する問題」と、歴史的分野の「資料を基に墾田永年私財法の影響を説明する問題」である。

- 複数の資料の読み取りを行い、それぞれから分かることを関連付けて説明したり、表現したりする場面を増やす。
- 歴史における土地制度の変容について、その時代の背景や社会の変化と結び付けて考えるように指導する。

## 英語

正答率が高かったのは、「短い英文の内容を聞き取る問題」である。

正答率が低かったのは、「情報を整理しながら必要な情報を聞き取る問題」と、「書かれた内容に対して自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉える問題」である。また、後半の大問の無解答率が高いことから、解答時間が足りなくなってしまった生徒が多かったと考えられる。

- 目的をもって必要な情報を聞きとり、整理しながら相手に伝える活動を増やす。
- 目的を明確にして英文を読み、内容を踏まえて自分の意見を書く活動を増やす。

### 【質問紙調査より】

国・県より肯定的な回答の割合（%）が高いもの（◎は特に大きく上回ったもの）

- 学校は好きだ
- 自分にはよいところがあると思う
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる
- 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある（習い事は除く）
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
- 国語の勉強が好きだ
- 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う
- 理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てている

国・県より肯定的な回答の割合（%）が低いもの

- ▲学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上勉強する（塾や家庭教師、オンライン学習を含む）
- ▲学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている
- ▲授業でPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日（1回以上の授業で）使用した

- 地域とのつながりに関連した質問項目について、肯定的な回答の割合が、国や県を大きく上回っている。これは、学校運営協議会（コミュニティスクール制度）が昨年度設置されたことにより、授業や学校生活の中で、保護者や地域の方々に協力してもらう機会が増えたこと、また部活動の地域展開に向けて、地域の方々の指導を受ける機会が増えたことが大きく関係していると考える。また協力してもらうだけでなく、「地域をよくするために何かしてみたい」と考えている生徒も多く、これからも地域とのつながりを大切にしながら、様々な面で連携を工夫していきたい。
- 昨年同様、各教科の授業について「好きだ」「よく分かる」と肯定的に回答している生徒の割合は高いものの、教科調査の結果からは、基礎・基本の定着に課題がある問題も見られる。生徒の「好き」「楽しい」という気持ちを大切にしながら、学習をしっかりと定着させるための授業の工夫が求められる。
- 昨年度に引き続き、家庭学習時間が少ないことが課題である。各学年の目安時間が達成できるよう、家庭学習強化週間等の取組をさらに充実させていく必要がある。